

日本学術会議会長談話 伊藤正男元会長に対する弔意

第16期（平成6年7月～平成9年7月）の3年にわたって会長を務められた伊藤正男先生が、去る12月18日に逝去されました。

この第16期には、科学技術基本法の成立（平成7年）、同法に基づく科学技術基本計画の策定（平成8年）による長期的視野に立った体系的かつ一貫した科学技術政策の実行という、科学技術政策にとって大きな出来事がありました。また、戦後初の大都市直下型地震である阪神・淡路大震災が発生し（平成7年）、神戸市を中心とした阪神地域及び淡路島北部は甚大な被害を受けました。これらの重大事に際し、日本学術会議は、伊藤正男先生をトップとする体制の下、学術研究体制の改善充実を早急に進める必要性について政府に勧告、要望を行い、また、人文・社会科学から自然科学まで全学術分野を網羅しているという日本学術会議の特長を最大限活用して阪神・淡路大震災の経験の考察を行うなど、学術界の発展及び社会への貢献のために尽力いたしました。そのほかにも、当時の日本学術会議は、伊藤正男先生のリーダーシップの下、優れた若手研究者の養成や高齢者の福祉及び医療、学術と産業との関わりなど、今現在も続く数々の学術界の重要課題に果敢に取り組んでおり、伊藤正男先生が学術界に残された御功績は計り知れません。

日本学術会議は、伊藤正男先生の多大なる御貢献に深く感謝し、ここに謹んで哀悼の意を表します。

平成30年12月26日

日本学術会議会長 山極 壽一